

第 1 3 0 期 中 間 報 告 書

平成 22 年 4 月 1 日 ～ 平成 22 年 9 月 30 日

Noritake

株式会社

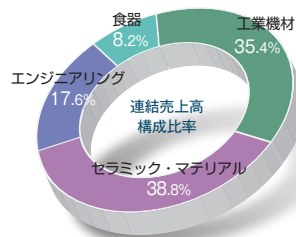
ノリタケ カンパニー リミテド

証券コード：5331

ノリタケの 事業領域

第2四半期連結売上高

工業機材事業	182億87百万円	(前年同期比43.2%増加)
セラミック・マテリアル事業	200億13百万円	(同上 27.4%増加)
エンジニアリング事業	90億64百万円	(同上 10.6%増加)
食器事業	42億48百万円	(同上 8.8%減少)
合計	516億13百万円	(前年同期比24.9%増加)



工業機材事業



ダイヤモンドワイヤー

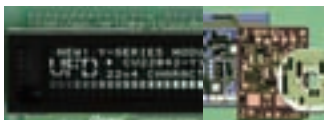
フラッディ

連結売上高
構成比率 **35.4%**
(前年同期比43.2%増加)

営業の概況 主に金属加工分野で使用される研削砥石及びCBN工具、電子・半導体から土木・建築まで幅広い分野で使用されるダイヤモンド工具は、主要顧客である自動車、鉄鋼、ベアリングの各業界の生産が回復したことに加え、新規市場に向けた受注活動により、売上げが増加し、国内市場のみならず北米・欧州・アジア市場でも主要顧客の生産回復により、売上げが増加しました。

また、研磨布紙は主要顧客の在庫調整が終わり、売上げが回復しました。

セラミック・マテリアル事業



蛍光表示管

厚膜印刷回路基板

連結売上高
構成比率 **38.8%**
(前年同期比27.4%増加)

営業の概況 太陽光発電用・PDP用電子ペースト並びに貴金属ペーストが、業界の伸張と積極的な販売活動により好調に推移しました。

触媒担体などのセラミック部品や、顧客の好調な生産の影響を受けたセラミック原料や電子部材、エコカー減税等の後押しにより車載用が好調であった厚膜印刷回路基板も売上げが増加しましたが、デンタル関連商品については売上げが減少しました。

蛍光表示管モジュールは、北米市場における産業機器、計測器向けの回復により好調に推移しました。

エンジニアリング事業



リチウムイオン電池向け
遠赤外線塗装乾燥システム

連結売上高
構成比率 **17.6%**
(前年同期比10.6%増加)

営業の概況 加熱工程で使用される乾燥炉及び焼成炉は、成長分野であるリチウムイオン電池向け設備等の拡販に努めたものの、ほぼ前年同期並みの売上げとなりました。

鉄鋼の手入れ研削や鋳物のバリ取り研削などに使われる研削機械及び超硬丸鋸切断機の売上げが回復し、セラミックフィルター等の濾過装置等はアジア市場向けに好調であったことから、それぞれ売上げが増加しました。

食器事業



ノリタケボーンチャイナ
ジョージアンターコイズ
ジョージアンパレス

連結売上高
構成比率 **8.2%**
(前年同期比8.8%減少)

営業の概況 国内市場におきましては、消費者・企業の消費抑制と製品供給体制の再編成の遅れにより、ホテル・レストラン及び百貨店・専門店向けともに不振で売上げが減少しました。

海外市場については、欧州市場の回復が遅れているものの、北米・アジア市場での百貨店及び大型専門店向けが回復したことから、売上げが増加しました。

太陽電池製造工程への技術の提供

ノリタケは、食器製造で培った独自の技術をベースに、それぞれの事業分野で技術を磨き上げてきました。その技術を結集し、結晶シリコン系太陽電池の原料となる「シリコン」から太陽電池の発電部となる「セル」を製造するまでの工程において、さまざまな「製造装置」、「工具」、「材料」を開発し、発電効率の向上や太陽電池の効率的な製造に寄与しています。



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃は、株式会社ノリタケカンパニーリミテドをご支援いただきまして、心よりお礼申し上げます。

当社におきましては、世界同時不況によって落ち込んだ業績の立直しと急激に変化する市場への対応を基本課題とする新たな中期3カ年経営計画を策定し、本年度より取組みを開始致しております。

ここに、ノリタケグループの平成22年度連結第2四半期(平成22年4月1日から平成22年9月30日まで)の経営成績と今後の取組みについてご報告申し上げます。

平成22年12月



代表取締役社長

種村 均

● 当第2四半期業績のご報告と通期業績見通し

当第2四半期は、エコ減税効果などによって自動車や家電製品の国内販売が好調に推移したほか、中国など新興国向けの輸出も拡大したことから、国内の景気回復が進みました。また、太陽光発電やリチウムイオン電池など環境・エネルギー関連の需要も育ちつつあります。

こうした経済情勢の好転により、当社の連結業績も主力の工業機材事業のほかエンジニアリング事業の受注回復などによって売上、利益共に大幅な改善が見られました。当第2四半期の連結売上高は、

516億1千3百万円（前年同期比24.9%増加）、営業利益は20億1千1百万円（前年同期は24億6千7百万円の損失）となりました。

また、本年4月1日付でセラミック・マテリアル事業本部の主要子会社であるノリタケ機材株式会社と株式会社ノリタケセラミックスを本社に統合し、経営体制のスリム化と全社的な経費削減に努めると共に、成長分野である太陽光発電やリチウムイオン電池向けの商品開発に全力を挙げて参りました。

● 今後の展望と課題

当社は、今後の経営課題と基本戦略を新中期3ヵ年経営計画として策定し、業績の立直しと将来に向けた成長を期すための基本戦略を掲げました。

第一は、経営資源を有望な分野に重点的に配分しようというものであり、成長期待の大きい環境関連事業や新興国向け事業の育成を推進して参ります。

第二は、市場で競争優位に立つための新技術、新商品の開発です。優れた新素材、工具、生産設備などの開発に全力で取り組みます。

第三は、新興国を中心に海外市場の開拓をより積極的に展開します。

第四は、海外調達を活用による大幅なコストダウンです。海外工場建設のほか海外調達の拡大によってコスト低減と採算の向上を図ります。

第五は、経営体制のスリム化と効率化です。組織再編のほか本社の工場移転と跡地の有効活用、情報

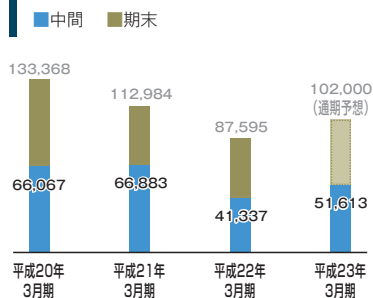
システムなど経営インフラの拡充を図り、より効果的で効率的な経営体制を構築します。

株主の皆様には、こうした当社の取組みについてご理解をいただき、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

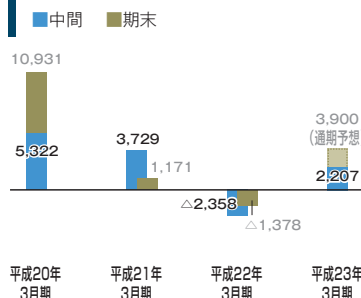
第130期（平成23年3月期）業績見通し

売 上 高	102,000 百万円
営 業 利 益	3,500 百万円
経 常 利 益	3,900 百万円
当 期 純 利 益	1,500 百万円

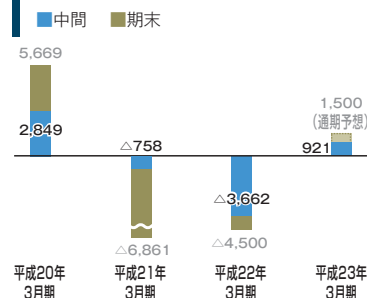
連結売上高 （単位：百万円）



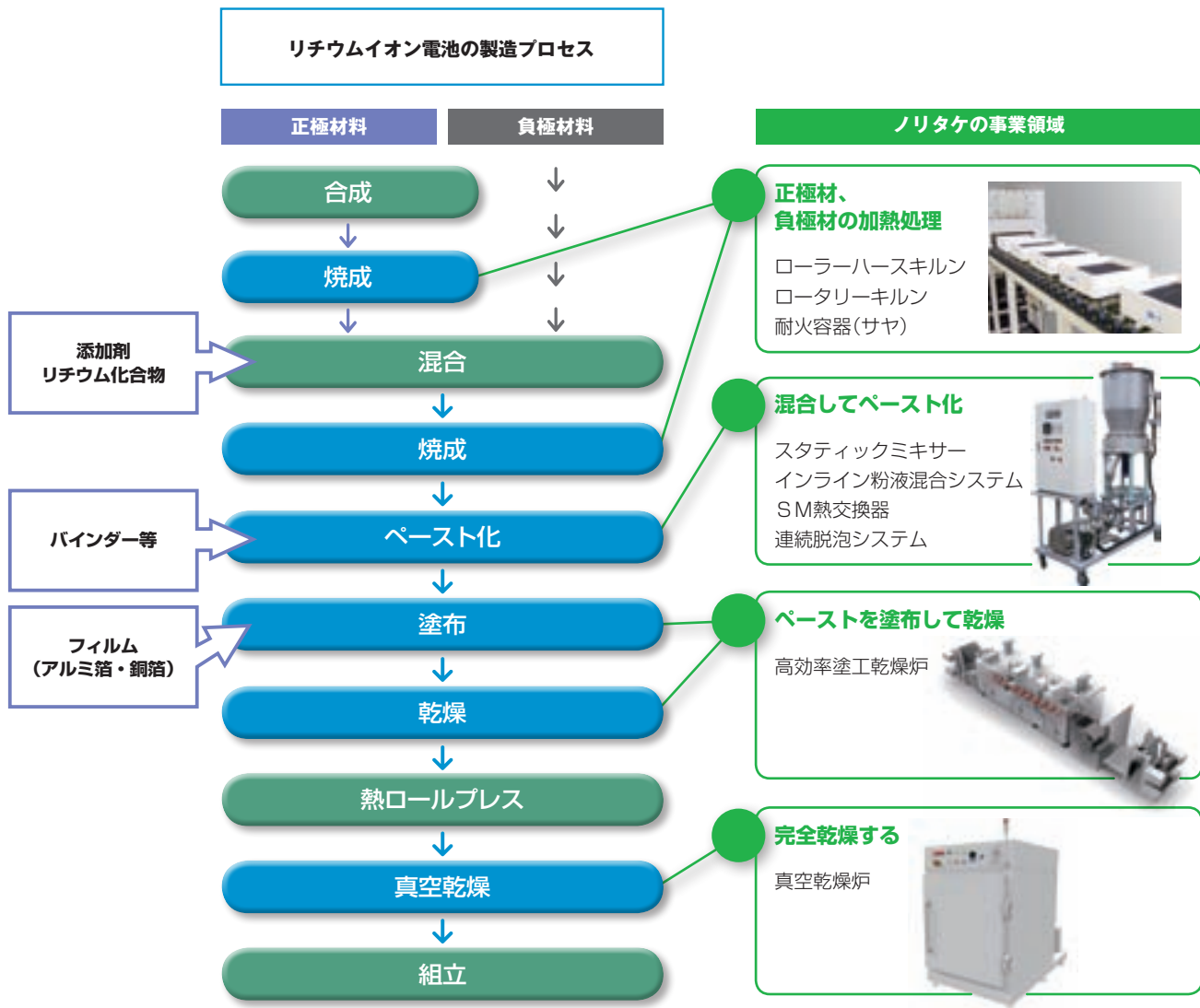
連結経常利益(損失) （単位：百万円）



連結当期純利益(損失) （単位：百万円）

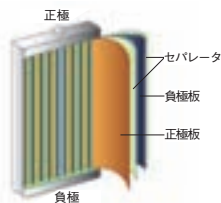


次世代自動車バッテリーの製造を支える

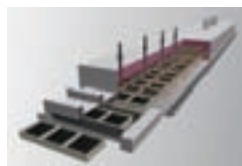


リチウムイオン電池の製造工程でノリタケの技術が使われています。

社会の環境への意識が高まるにつれ、ハイブリッドカー(HV)が急速に普及し、また電気自動車(EV)も注目を集めています。そのバッテリーとして利用が見込まれるのがリチウムイオン電池。当社は、このリチウムイオン電池の電極を製造する工程で使われるさまざまな装置を供給しています。



製品フォーカス



ローラーハースキルン

原材料をセラミックローラーのコンベアで搬送する連続焼成炉です。粉末状の材料の充填、搬送、回収など、焼成工程の前後を含めて、一連のシステムとして提供できるため、不純物の混入を防ぎ、高品質な電極材が製造できます。

スタティックミキサー

液体や粉末などがパイプの中を流れることで混合されるので、動力が不要で省エネルギーにも効果があります。混合のほか、原材料の分散や徐熱、混合後の粉の沈降防止などの各作業でも使用されます。



塗工乾燥システム

アルミ箔や銅箔にペーストを塗布し、乾燥を行う装置です。電極板のほか、セパレータフィルムの製造にも使用できます。



遠心分離機

「超高精度型遠心分離機 センチュリクリーン EX」



遠心力を利用して研削液中の切粉(スラッジ)を回収する濾過装置に新型が登場しました。半導体シリコンウェハや電子部品用ガラス製品などの加工では、高精度な加工が求められる傾向にあり、発生する加工屑もますます微細化してきています。これに伴い加工屑の分離装置にも、より

高い除去性能が求められるようになりました。

「センチュリクリーン EX」は、回転タンクの最大回転数を大幅に上げ、2,200Gの強力な遠心力(30%アップ：当社従来機比)で、スラッジの除去率を大幅向上させました。

また、独自の泡抑制機構によって分離中に発生する泡を少なくすることが可能になりました。

ダイヤモンド研磨ベルト「アルタ」

「太陽電池シリコン加工用」

当社の太陽電池関連商品ラインアップに、ダイヤモンド砥粒を使った研磨ベルト「アルタ」が加わりました。

シリコンインゴットを切断したブロックのバリ取りや表面の研磨は、これまでダイヤモンドブラシや薬品を使用していましたが、この作業を研磨ベルト「アルタ」で行うことにより、研磨面の粗さが大幅に改善されます。その後の工程で薄く切断してシリコン基板にする時の歩留まりが向上し、さらに基板を薄くすることもできます。作業スピードもダイヤモンドブラシに比べ3～4倍速くすることができるため、約3割の加工コスト低減も可能となります。



第2四半期連結貸借対照表(要約)

(単位：百万円)

科 目	第130期 〔第2四半期〕 平成22年9月30日現在	第129期 〔前期〕 平成22年3月31日現在
資 産 の 部		
流 動 資 産	59,965	56,351
固 定 資 産	49,222	53,243
有 形 固 定 資 産	30,633	31,066
無 形 固 定 資 産	656	740
投 資 そ の 他 の 資 産	17,932	21,435
資 産 合 計	109,188	109,594
負 債 の 部		
流 動 負 債	29,453	30,145
固 定 負 債	15,525	12,737
負 債 合 計	44,978	42,883
純 資 産 の 部		
株 主 資 本	59,529	60,070
資 本 金	15,632	15,632
資 本 剰 余 金	18,832	18,832
利 益 剰 余 金	32,669	32,108
自 己 株 式	△7,605	△6,504
評 価 ・ 換 算 差 額 等	△2,807	△671
その他有価証券評価差額金	2,211	3,818
為 替 換 算 調 整 勘 定	△5,019	△4,490
少 数 株 主 持 分	7,488	7,313
純 資 産 合 計	64,209	66,711
負 債 純 資 産 合 計	109,188	109,594

第2四半期連結損益計算書(要約)

(単位：百万円)

科 目	第130期 〔第2四半期〕 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	第129期 〔第2四半期〕 平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで
売 上 高	51,613	41,337
売 上 原 価	37,149	31,798
売 上 総 利 益	14,463	9,538
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	12,452	12,006
営 業 利 益 (営 業 損 失 : △)	2,011	△2,467
営 業 外 収 益	396	368
営 業 外 費 用	200	258
経 常 利 益 (経 常 損 失 : △)	2,207	△2,358
特 別 利 益	2	148
特 別 損 失	424	1,140
税 金 等 調 整 前 四 半 期 純 利 益 (純 損 失 : △)	1,785	△3,349
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	400	291
法 人 税 等 調 整 額	165	△8
少 数 株 主 利 益	298	29
四 半 期 純 利 益 (純 損 失 : △)	921	△3,662

連結貸借対照表のポイント

当第2四半期における総資産は売上債権が増加したものの、保有株式の株価下落に伴い投資有価証券の時価総額が減少したことから、4億5百万円減少いたしました。

連結損益計算書のポイント

当第2四半期における特別損失の内、主なものは固定資産処分損2億12百万円と資産除去債務会計基準適用に伴う影響額1億57百万円です。

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要約) (単位：百万円)

科 目	第130期 (第2四半期) 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	第129期 (第2四半期) 平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで
営 業 活 動 に よ る キャッシュ・フロー	4,679	2,150
投 資 活 動 に よ る キャッシュ・フロー	△1,487	△2,761
財 務 活 動 に よ る キャッシュ・フロー	△2,670	590
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△139	228
現金及び現金同等物の 増 減 額	381	207
現金及び現金同等物の 期 首 残 高	11,834	11,569
現金及び現金同等物の 四 半 期 末 残 高	12,215	11,776

連結キャッシュ・フローのポイント

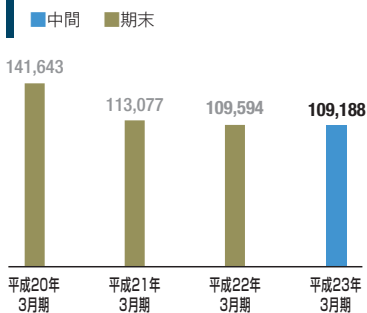
営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益が増加したことなどにより25億29百万円増加しました。財務活動によるキャッシュ・フローは、自己株式を取得したことなどにより、32億60百万円減少しました。これらの結果、現金及び現金同等物の四半期末残高は4億38百万円増加しました。

配当について(剰余金処分)

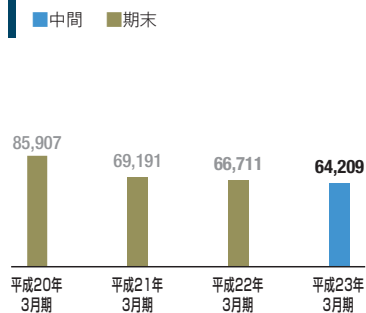
当中間期は、中間配当を1株当たり2円50銭とさせていただきます。

期末の配当も1株当たり2円50銭、年間5円を予定いたしております。

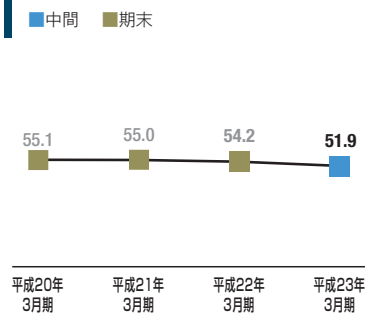
連結総資産 (単位：百万円)



連結純資産 (単位：百万円)



連結自己資本比率 (単位：%)



会社概要

創 立 明治37年1月1日(合名会社)
 設 立 大正6年7月20日
 資 本 金 156億3,230万4,225円
 本 社 名古屋市西区則武新町三丁目1番36号
 従 業 員 数 2,052名(連結4,164名)
 (注)従業員数のうち、グループ会社への出向者は807名
 であります。

連 結 対 象 社 Noritake Co., Inc.
 株式会社ノリタケボンデッドアブレーション
 株式会社ノリタケスーパーアブレーション
 株式会社ノリタケコーテッドアブレーション
 共立マテリアル株式会社
 ノリタケ伊勢電子株式会社
 (注)上記を含む連結対象子会社23社、持分法適用会社3社

役員一覧

代表取締役会長	赤羽 昇	執行役員	加藤 公平
代表取締役社長執行役員	種村 均	執行役員	早坂 謙司
取締役専務執行役員	佐分孝 一	取締役執行役員	中川 正弘
取締役専務執行役員	村田 実	執行役員	馬淵 義隆
専務執行役員	堀口 隆	執行役員	加藤 博
取締役専務執行役員	小倉 忠	常勤監査役	安藤 一成
取締役常務執行役員	中山 和尊	常勤監査役	藤井 正敏
常務執行役員	丸林 民夫	監査役	五味 康昌
取締役常務執行役員	島崎 悟	監査役	木下 光男
取締役執行役員	小倉 久也		

(注) 監査役 五味康昌及び木下光男の両氏は、会社法第2条第16号に定める
 社外監査役であります。

株式の状況

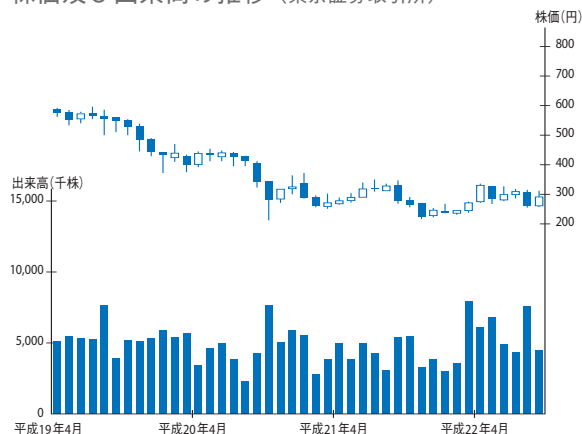
発行可能株式総数 397,500,000株
 発行済株式の総数 158,428,497株
 株 主 数 15,657名

大株主（上位10名）

株 主 名	持株数(千株)	持株比率(%)
明治安田生命保険相互会社	12,095	8.66
第一生命保険株式会社	11,700	8.37
日本生命保険相互会社	8,979	6.43
株式会社三菱東京UFJ銀行	5,694	4.08
T O T O 株 式 会 社	5,208	3.73
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,593	3.29
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,356	2.40
東京海上日動火災保険株式会社	3,199	2.29
日本特殊陶業株式会社	2,100	1.50
日本碍子株式会社	2,096	1.50

(注) 当社は、自己株式を18,705,938株保有しておりますが、上記大株主から除
 外しております。また、持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

株価及び出来高の推移（東京証券取引所）



N4(エヌフォー)が グッドデザイン賞を受賞

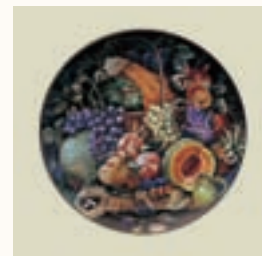
No Borders —「境界を越えた」/
No Styles —「様式を越えた」/
No Categories —「種類を越えた」/
No Ages —「時代、世代を越えた」の4つのキーワードを掲げ、「美しくシンプルなフォルム」をコンセプトに誕生したN4が、この度、2010年度グッドデザイン賞(財団法人日本産業デザイン振興会主催)を受賞しました。



オブジェのような存在感があるN4は、使い手に自由な発想と組み合わせで使っていただく事でオリジナリティ豊かな独自の世界をお楽しみいただける食器です。

熟練技能者の技 飾り皿の世界

大正末期から昭和50年代にかけて、ノリタケの熟練技能者が手描きで絵付けした飾り皿は、大変工芸性が高く、製品には絵付け担当者の銘が入れています。ノリタケの森「ノリタケミュージアム」において、これらの手描き絵付けで制作された飾り皿を集めた特別展示を来年4月3日まで開催しています。熟練技能者の技と息遣いをご堪能ください。



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 電子公告の掲載ホームページアドレスは次のとおりです。 http://www.noritake.co.jp/koukoku/
定時株主総会の基準日	3月31日
剰余金の配当基準日	期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)
単元未満株式の買取・買増手数料	無料

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

オールドノリタケ復刻

薔薇画金盛素描水差

一九世紀末から二〇世紀初頭にかけてノリタケが世界に向けて送り出したオールドノリタケ。日本の優れた技術力と芸術的な感性は、美術工芸品として高い評価を受け、現在では骨董愛好家に人気のコレクションズアイテムとなっています。この薔薇画金盛素描水差は、豪奢に使われた金加飾とアールヌーボー期のデザインの流れを汲み、ちりばめられた薔薇の花びらは、金との絶妙なマッチングを見せています。

明治二三年から四三年頃のオールドノリタケ黎明期を代表する作品を現代のマスターペインターが復刻いたしました。



Noritake

TOKYO・NEW YORK・SYDNEY・FRANKFURT・DUBAI

www.noritake.co.jp/tableware ノリタケ食器のお客様相談室 0120-575571